TUTTI 第2号 2016.4.8.

2016年度運営委員

今年度から運営委員会にパート・リーダーの皆さんに加わっていただき、出席者は、団長、パート・リーダー、各種担当係となります。パート・リーダーの方にはいずれかの担当係兼務を原則とし、以下の皆さん（敬称略）で団の運営を図っていきます。

団長：　真﨑（隆）

パート・リーダー：　S　小倉　　A　工藤　　T　大林　　B　山内

担当係：（P）はパート・リーダー兼務

会計　安光　　書記　工藤（P）　　企画　山内（P）、遠山（美）

渉外　大林（P）

・この他の担当係、楽譜　北澤、かなん　村野、および企画担当の遠山（美）は必要に応じて運営会に陪席していただきます。なお、小倉さんはご都合により運営会に参加されません。

運営委員になられる皆さんよろしくお願いいたします。また、これまで数年にわたり運営委員をつとめてくださった皆さんには、退団された吉田さんもふくめて、多くのご苦労をいただき有難うございました。

《軽井沢シンフォニックコーラス申し合わせ》のこと

数年前から団の規約をつくろうとの声がありましたが、この３月の運営会で、規約では制約の感じが強いので、「申し合わせ」ではどうかということになり、山内さんに原案をつくっていただきました。４月15日の運営会でこれを検討し、皆さんには22日の練習のときに運営会案をお配りしてご承認いただければと考えています。

練習日について

３月の運営会で了承された事項のお知らせとお願いです。

１）練習に欠席される方はパート・リーダーに事前にご連絡ください。パート・リーダは練習開始前に団長までお伝えください。

２）今年度から従来の練習日に加え、金曜日でない日時に１回追加し、練習を原則月３回とします。日時については、事前に皆さんに伺い決定しますが、今月はその余裕がなく、指揮者の都合にあわせ27日（水）にしました。よろしくご参加ください。
会場は借宿公民館で、19時からです。なお、第３の練習日は、譜読み、パート練習など、復習や確認を徹底させるもので、坂井先生のピアノはありません。

練習予定日（案）（太字は第３練習日、曜日のないのは金曜日、会場は原則借宿公民館19時）

４月　８日、22日、**27日（水）**

５月　６日、20日、＜施設への出張演奏考慮中、下記参照＞。他に**16日（月）**が第３練習日の候補

６月　３日、10日、24日　＜12日　緑の音楽祭＞

７月　８日、22日、他

８月　５日、19日、他

出張演奏会

かねて、老人ホームや病院などの施設に出向き、そこの皆さんと一緒に歌うひとときを持ちたいと願ってきましたが、今年度から年２回ていど実施を目標に始めます。その１回目を５月中に予定できるかどうか運営会で検討します。童謡や唱歌など、練習に大きな負担のない親しみやすい曲で、時間は交流もふくめ１時間以内を考えています。参加者も全員というのではなく、その都度参加できる方を募ってお願いしたいと思います。

楽曲紹介

緑の音楽祭で歌う２曲についての豆知識など。

《フニクリ・フニクラ》ルイジ・デンツァ作曲による世界初のコマーシャルソング

ナポリ湾を背景にそびえるヴェスヴィオ火山。1880年に山頂まで行く登山電車（フニコラーレ）がつくられ、客集めのためにこの曲がつくられました。それがあまりにすばらしく楽しいので、世界中でイタリア民謡と誤解されて歌われるようになりました。原曲の歌詞のおよその意味は「すごいものに乗ったんだ、火の噴く山までひとっ飛び、絶景を眺めながら疲れ知らず、さあ行こう、行こう、フニクリ・フニクラ」。日本でも人気が高く、今回歌う歌詞、「行こう、行こう、火の山へ」の原語「ヤムモ、ヤムモ、ンコッペ、ヤムモヤ」というのは耳にされたこともあるかと思います。また、替え歌「鬼のパンツ」も有名ですね。これは杉並児童合唱団の吹き込んだものがあります。ただ、フニクラーレは、1944年の大噴火のため中止になり、現在は山頂付近まで行く２人乗りリフトになりました。ついでながら、ナポリ湾からのこの火山の姿はどこか借宿から見る浅間山に似た趣きがあります。

《レパブリック讃歌》

奴隷制度に反対して戦った北軍の行進曲が、北軍兵士たちのあいだで人気の高い歌となり、やがては米合衆国での愛唱歌になりました。それどころか、無数の替え歌を生みだしながら世界中に広がり、日本でも「権兵衛さんの赤ちゃん」などで誰もが知る歌になりました。今回歌う、みのわ隆訳詞は、原曲の６節からなる歌詞のうち３節をえらび、神の正義への期待と、神の勝利を讃えるリフレイン的部分から成り立っています。１節は正義の神の到来の告知、２節は野営地に広がる灯火に見る神の現在、３節では海の彼方の美しい花園で生まれた主イエスがここに来られる。奴隷を解放する自由の歌を高らかに歌おう！」と歌われ、このあとにそれぞれ神を讃える歌がつけられています。’　なお、Glory Hallelujah! の部分は仮名書きでありません。ということは英語的に、私たちとしてはラテン語的に発音しましょう。口の形を正しくすると、たとえば63小節以下のところなどのリズム感がはっきり歌えます。試してみてください。

あとがき

TUTTI の発行を長らく放置していて申し訳ありません。やっと第２号です。これからは心をいれかえて、毎月運営会の報告などを中心に出せるように努力します。皆さんからの投書なども大歓迎ですので随時お寄せください。以前にいただい原稿ももちろん保存してありますので、適宜載せさせていただきます。もろもろよろしくお願いいたします。真﨑